



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—ハイテク株が牽引しナスダック総合指数は年初来高値を更新—

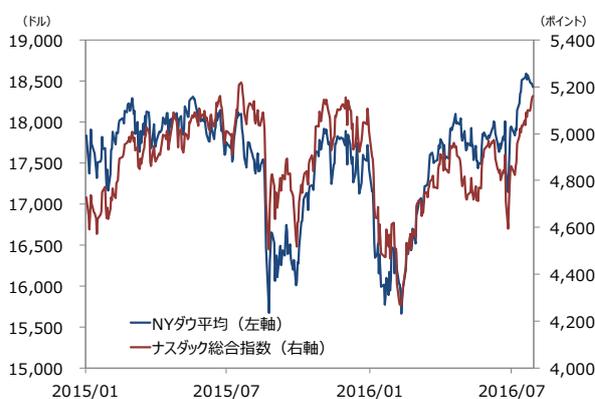
	前週終値	7月25日	7月26日	7月27日	7月28日	7月29日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,570.85	18,493.06	18,473.75	18,472.17	18,456.35	18,432.24	-138.61	-0.75%
騰落幅		-77.79	-19.31	-1.58	-15.82	-24.11		
S&P500	2,175.03	2,168.48	2,169.18	2,166.58	2,170.06	2,173.60	-1.43	-0.07%
騰落幅		-6.55	+0.70	-2.60	+3.48	+3.54		
ナスダック総合指数	5,100.16	5,097.63	5,110.05	5,139.81	5,154.98	5,162.13	+61.97	+1.22%
騰落幅		-2.53	+12.42	+29.76	+15.17	+7.15		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は、ダウ平均とS&P500は下落した一方でハイテク株比率の高いナスダック総合指数は上昇と、高安まちまちとなりました。

アップル(AAPL)、フェイスブック(FB)、アマゾン・ドットコム(AMZN)、アルファベット(GOOG)などのハイテク株の決算が好調で、ナスダック総合指数は連日で年初来高値を更新しました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



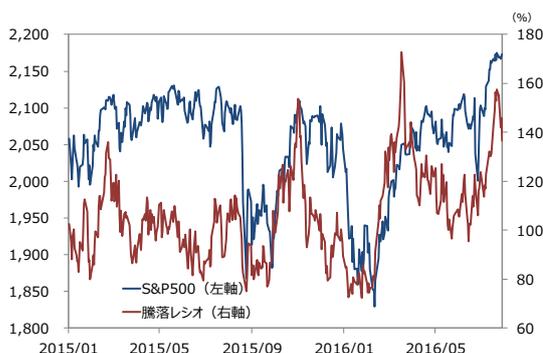
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	17.4	3.2	2.6%
S&P500	18.4	2.9	2.1%
ナスダック総合指数	22.3	3.6	1.2%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年7月29日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

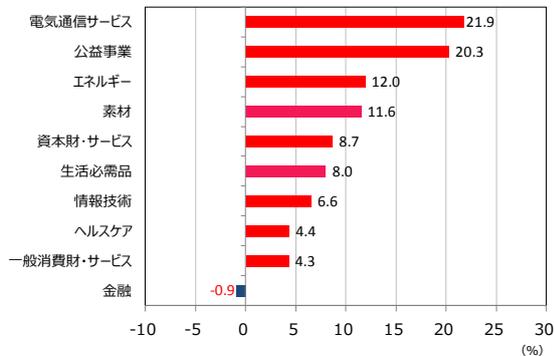
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

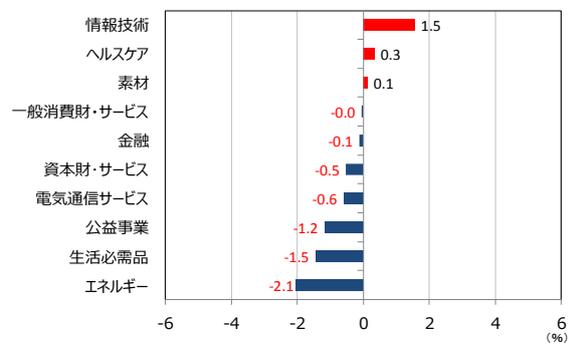
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (7/25-7/29)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
AAPL	アップル	5.6
CAT	キャタピラー	4.3
UTX	ユニオン・テクノロジー	2.4
HD	ホーム・デポ	1.3
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	1.1
INTC	インテル	0.6
PFE	ファイザー	0.4
AXP	アメリカン・エクスプレス	0.3
MSFT	マイクロソフト	0.2
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	0.2

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (7/25-7/29)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
MCD	マクドナルド	-8.3
XOM	エクソン・モービル	-5.4
KO	コカ・コーラ	-4.8
CVX	シェブロン	-3.0
GE	ゼネラル・エレクトリック	-2.9
V	ビザ	-2.3
NKE	ナイキ	-2.2
DIS	ウォルト・ディズニー	-1.8
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	-1.2
MMM	3M	-1.2

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中11銘柄が上昇しました。中でもアップルは決算が減収減益だったものの市場予想を上回ったことが好感されて5%超上昇し、ダウ平均構成銘柄のうち上昇率がトップとなりました。また、こちらも減収減益ながら決算が市場予想ほど悪化しなかったキャタピラー (CAT) も4%超上昇しています。

<下落>

決算が減収減益で市場予想も下回ったマクドナルド (MCD) が週間で8%超の大幅下落となりました。また、原油安を受けてエクソン・モービル (XOM) やシェブロン (CVX) の両社も売られました。

先週発表された主な経済指標

連邦公開市場委員会 (FOMC)

7月26日から27日にかけて開催された連邦公開市場委員会 (FOMC) で利上げは見送られました。元々今回の会合で利上げが決定される可能性はゼロに近いとみられており、利上げ見送りは既定路線でした。

声明文冒頭で示される経済状況への認識に大きな変化がありました。労働市場に対する認識について、前回の声明文では「労働市場は鈍化した。(the pace of improvement in the labor market has slowed)」と表現されていたのに対し、今回は「労働市場が力強さを増した (the labor market strengthened)」との表現に変わり、明確に労働市場に対する認識が変更されています。労働市場に対する認識変化は、雇用統計の非農業部門雇用者数の伸びを反映したものです。5月分の非農業部門雇用者数は労働者の伸びが大きく鈍化しましたが、6月分で回復が確認されたことでFOMCメンバーたちの懸念が後退したとみられます。

今後発表される主な経済指標

7月分雇用統計

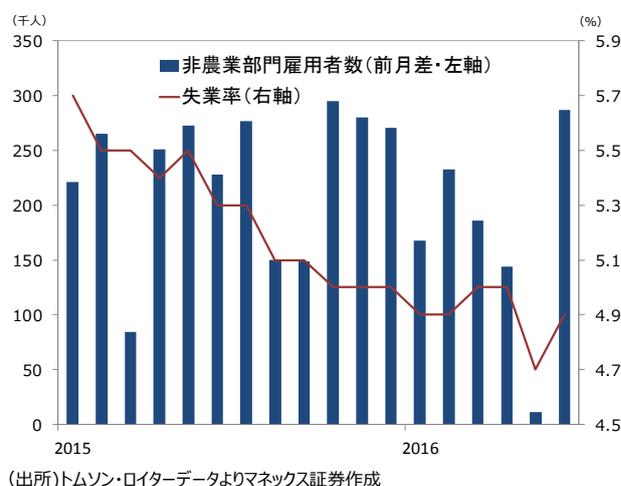
非農業部門雇用者数 (前月差) 市場予想 +17.5万人 前月 +28.7万人

失業率 市場予想 4.8% 前月 4.9%

5日に7月分の雇用統計が発表されます。FOMCの声明文などからすると次回9月のFOMCでの追加利上げの可能性が完全に排除されたわけではありません。その最大の判断材料となるのが労働市場の改善動向になるとみられ、引き続き雇用統計には大きな注目が集まります。

市場予想では非農業部門雇用者数が前月差17.5万人増、失業率が前月から0.1ポイント低下の4.8%とそれぞれ堅調な内容になると予想されています。

非農業部門雇用者数と失業率



マーケットビューー米重要経済指標や英中銀の金融緩和に注目ー

先週のマーケットビューーでは、FOMCの声明文の内容次第で相場動向が変化しそうと記しました。結果的には声明文が比較的ニュートラルな内容だったことから株式市場の反応は限定的でした。

今週は月初とあって重要指標が多く発表されます。1日にISM製造業景況指数、2日に個人消費支出、3日にISM非製造業景況指数、5日に雇用統計といったスケジュールでそれぞれ発表されます。また、4日には英中銀(BOE)の金融政策委員会が開催され、利下げが実施されるのではないかと予想されています。各指標の内容や英中銀の緩和の有無、内容が今週のマーケットの材料となりそうです。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会